

2025年

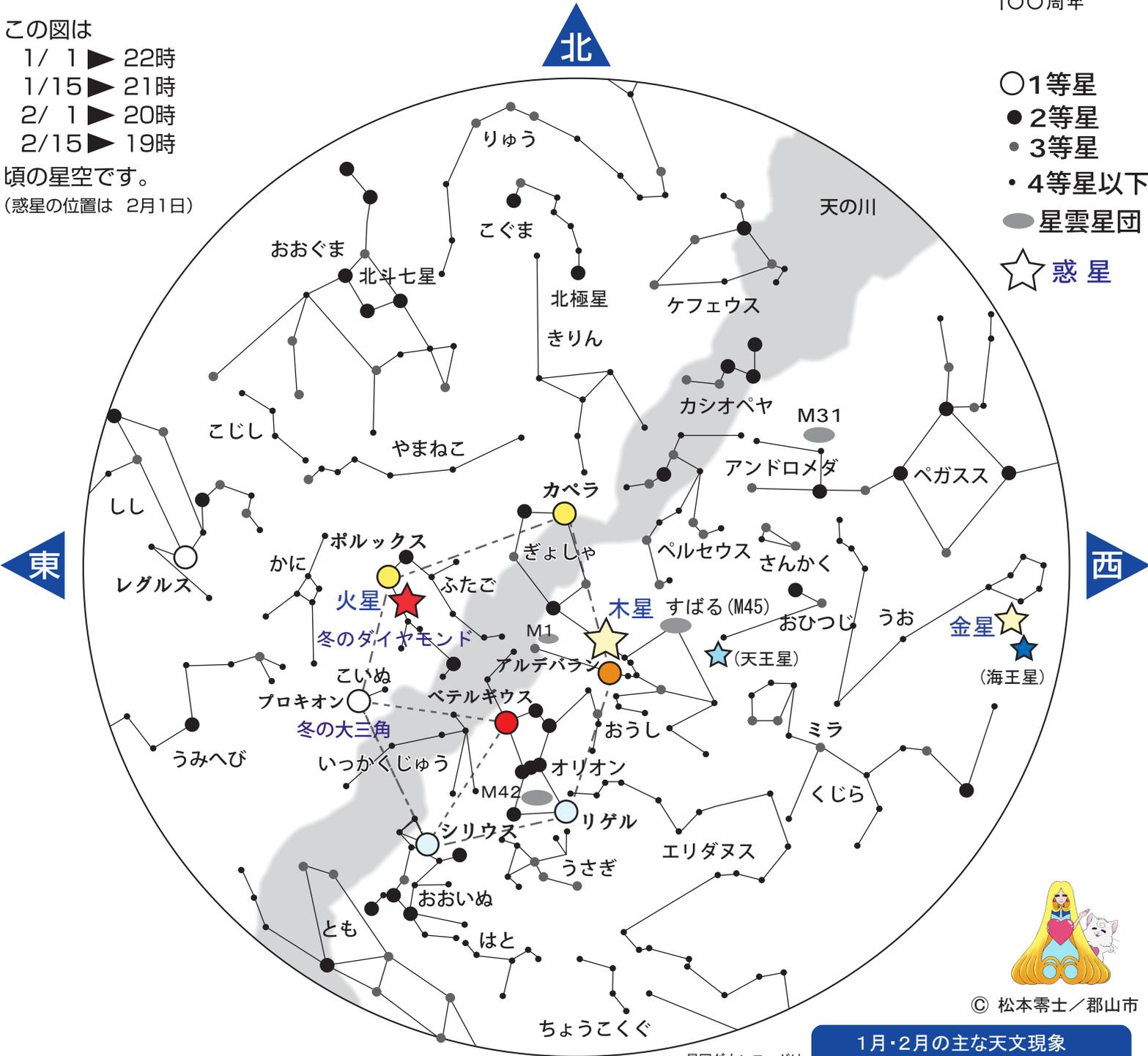
1月 ▶ 2月の星空



プラネタリウム
100周年

この図は
1/ 1 ▶ 22時
1/15 ▶ 21時
2/ 1 ▶ 20時
2/15 ▶ 19時
頃の星空です。
(惑星の位置は 2月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ☆ 惑星



© 松本零士/郡山市

郡山の日の出、日の入			月の満ち欠け	
1/ 1	6:50	16:35	新月	1/29, 2/28
1/15	6:49	16:47	上弦	1/ 7, 2/ 5
2/ 1	6:39	17:06	満月	1/14, 2/12
2/15	6:25	17:21	下弦	1/22, 2/21

※上弦、下弦は半月です。
※天王星は肉眼では見えません。

星図ダウンロードは
こちらから



1月・2月の主な天文現象

1/ 4	しぶんぎ座流星群が極大
1/12	火星が地球に最接近
1/17	火星が衝
2/15	金星が最大光度

1年の最初を飾る流星群である「しぶんぎ座流星群」が1月4日に極大を迎えます。しぶんぎ座は、今は使われていない「壁面四分儀(へきめんしぶんぎ)座」が由来で、りゅう座とうしかい座の境界あたりに描かれていました。今回の極大は4日の0時頃と予想されていますが、放射点(そこから放射状に流星が出現するように見える点)が空高くに昇る4日の未明から明け方の時間帯が好条件で観察ができそうです。最も多く見えるのは5時頃で、空の暗い場所であれば1時間に約30個の流星が見えると予想されています。空を広く見渡しながらかさ対策も忘れずに観察をしましょう。

冬の星座は1等星が多く、星を見つける楽しさをより実感できる季節です。さらに今はそのにぎやかな冬の星空に木星や火星が彩りを加えています。木星は1等星よりも明るく、金色の姿はとて目を引きま。街中でも肉眼ですぐに見つけることができます。また、ふたご座のところに見えている火星は1月12日に地球との最接近を迎えます。火星はおおよそ2年2か月ごとに地球との距離が近くなり、距離はその時によって異なります。今回は約9600万Kmまで近づきますが、最接近としては遠めの距離となります。また、1月16日は火星が衝(太陽系の天体が、地球から見て太陽とちょうど反対側になる瞬間のこと)となるため一晩中観察することができます。特徴的な赤い姿をお楽しみください。



高柳電設工業
SPACE PARK